

九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員合同協議会



常任理事 涌波 淳子



九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員合同協議会

日時：令和7年11月29日（土）10：00～12：00

場所：ホテル日航福岡 5階 志賀の間

《次 第》

1. 開 会
2. 九州医師会連合会長挨拶
3. 座長選出
4. 講 演
「中央情勢報告」 日本医師会長 松本 吉郎 先生
5. 閉 会

令和7年11月29日（土）紅葉の綺麗な福岡県にて九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員合同協議会が開催された。

松本吉郎日本医師会長から2時間にわたって、各県から出された6つの議題（①物価高騰等に対する補助金の執行について、②国民皆保険制度を守るために、③消費税について、④医

業承継の税制上の課題が地域医療の存続に及ぼす影響について、⑤令和8年度診療報酬改定における病院と診療所の均衡をめぐる課題について、⑥医療事故調査制度発足10年を踏まえて、日本医師会の立ち位置と各都道府県医師会の現況について）に関しての日本医師会としての返答に加え、前日に閣議決定された出来立てほやほやの補正予算案決定内容について説明があった。

詳細は議事録を参照していただきたいが、物価高騰と人件費高騰に苦しむ医療機関に対して、2,000億円で充分と主張していた財務省に対して、日本医師会長を始め役員の方、そのほかの皆さんのご努力、そしてタイミングよく高市総理との面談の成果によって1兆円規模での補正が決まったことを伺い、私自身もそうであるが、多くの医療機関、介護施設にとって本当に嬉しい報告であった。しかし、次回の診療報酬改定に関しては、その分厳しい意見もあ

り、財務省に対してエビデンスを出してしっかりと必要な交渉をしていかないといけない、この2週間が山場と熱のこもったお話であった。

超高齢社会の進化に伴い、医療費は増大することは確かである。今年は「令和の米騒動」と言われるほどの米価の高騰があり、政府は備蓄米を放出することで米の不足感を改善し、米価の引き下げを図った。一方で、米農家からは、「肥料や光熱費、人件費の上昇もあり、もう辞めようかと思っていたが、この値段であれば、米を作り続けられる」というコメントもあった。一般国民の立場からは、日本人の主食である米の値上がりは家計を逼迫し、特に所得の厳しい家庭にとっては5kg 5,000円というのは耐え難い金額であり、双方を助けるための様々な政策を国は模索している。米価の上がり下がりを見るときに、どの値段が米農家にとっても国民にとってもバランスの取れた値段になるのだろうかと考えていた。

今回の医師会長のご講演の中で、医療費の問題は米価の問題と同じ構造だと話されたのはとても印象的で、物価高騰も人件費高騰ももはや医療介護機関にとっては努力の限界を超えている。今後、まだ需要が増えていくと想定された

時に、この医療介護費用の増に対して、国は「命を守り、国民が安心して生活できるインフラの一つ」として責任を持って社会保障費の配分をしなければならないし、国民の皆様にもそれぞれが収入に応じて多少の自己負担分の増額もやむを得ないと理解を求めなければならない。また、納税者としての医療介護機関を含む企業側も理解をして納税をしないといけないという言葉が心に残った。

この2週間が診療報酬の山場と仰っていたが、この原稿が掲載される頃には、方向性はほぼ決まっている事と思う。いつも多岐にわたって広い視野で動いていただいている松本会長はじめ執行部の先生方に心から感謝をすると同時に、現場は現場として国民の命と生活を守り、地域医療を守り、医療介護経営を守り、職員を守るために精一杯知恵を出し、現場からの情報もしっかりと上げていきたいと思った。

※報告書及び松本会長のスライド資料の詳細につきましてはホームページをご参照下さい。
<https://www.okinawa.med.or.jp/medical/kaihou/houkoku/202303-2/>



お知らせ

講演会・例会のご案内



講演会・例会の開催については、沖縄県医師会ホームページ（左記QRコード）をご参照下さい。

※随時更新を行っております。